大館市政だより

第五十八号
（毎月一回発行）
大館市役所
発行所 秋田県大館市
編集兼発行人 竹内福哉

◆自衛官募集＝試験期日七月二十八日午前八時、場所大館保健所。願書は試験当日でも受付ることになっています（願書用紙は市商工課で）

◆三十三年度所得税第一期の納期は七月三十一日。納税についての相談も納期中に税務署へ。

近づく大館市復興祭

全市をあけて8月9日から10日間

昭和二十六年四月わが大館は市制を施行した。そしてまた、当時若冠三十二才全国一若い青年市長を迎えた。これより大館市の新しい街づくりの胎動がはじめられた。だが、幸か不幸か、そして試練か、その行く手には次々と困難が待ち受けていた。即ち二十六年の水害、二十八年片町官庁街の大火、三十年町村合併、そして五月駅前大火、三十一年中心商店街の大火と相次いだ。しかも終戦後の経済変動が地方財政をいやが上にも窮乏せしめたる折。考えてみると、なにかしら大館という荒神が七年前に眠りをさましたかのような気もする。

そしてこれより市民の血のにじむような復興と再建の闘いがはじめられた。

しかして、その苦しみの中からは次々と新しいものが生み出されていつた。

堤防は改修され、橋は永久橋化され、建物は不燃化され、道路がつけかえられ都市計画が進み、水道が布設された。そしていま、これらの事業が完成されようとしている。素晴しい建設と創造の跡を残して。

だが、長い間の張りつめた心身の疲も、おちつきとともに感じられるのも人情というもの。しかし大館市として内的にも充足されるためには、むしろこれらが本番であり、沈滞こそは禁物である。

地方都市には稀れに見ることのできない大館市の復興。そして七年間の大意なる建設。いまこそ全市をあげて祝そう。そして、永い間の疲労からも恢復して、心気一転希望に満ちた躍進の巨歩をふみ出そう。七年間の努力を基石として。

<写真は大町通り防火帯（田町方面を望んだ左側と右側）>

三つの祭典を合せて

多彩な行事　準備整う

復興祭は市と、市商工会議所が主催。市農業協同組合連絡協議会、森林組合、市内各産業団体、青年会議所、観光協会が協賛、中小企業庁、日本国有鉄道、仙台通商産業局秋田県、秋田営林局、各新聞社、放送局らの後援によって行われるもので、連続した三たびの火災復興をはじめ、市制施行七周年記念、さらには今までゆきとどかなかった産業祭等あわせ計画し経済文化の振興発展に寄与しようというもの。

準備は殆んど完了、予期以上の盛況が期待されています

七月末には市役所前、大館駅前、東大館駅前の三カ所に歓迎塔が設置されるほか、同じく歓迎アーチが長木川大橋に、また大館、東大館の両駅には装飾をこらし、桂城、城南の各会場に通じる道路の両側も小旗を以て歓迎装飾を施すことになっている。

宣伝キャラバンはバスを貸切り第一コース鹿角方面、第二コース二ツ井方面、第三コース弘前方面とくり出すほか普通バスの利用、横断幕、アドバルーンなどで宣伝も充分行うことになっている。

八月五日には会場アーチを完成、八日の前夜祭にはオートパレードで前景気をもりあげるほか自衛隊音楽隊の出動も予定され華々しく多彩、豪華な十日間の祭典の幕が切っておと[illegible]

時あたかも北海道大博覧会（七月五日～八月末日）の最中、全国から集まる観光客も行きに、帰りに国立公園十和田、八幡平の観光をかねてその訪ずれも多く、祭典気分は益々活況を呈するものと予測されています。

祭典行事のあらましについては、二面を御覧下さい。

大滝橋完成

華やかに渡り初め

昨年四月来、大滝、軽井沢地区の観光地開発をめざして架橋工事を急いでいた大滝橋が完成、去る七月五日、石田代議士、県知事、事業関係者地元名士ら百余名が参会、厳粛盛大な〃渡り初め〃の式を行いました。長年来待望の橋しかも鉄筋コンクリートの見事な永久橋を間のあたりにみる地元の人々の表情には隠しきれない微笑がたゝえられていた。成章小学校児童達の小旗を振りながらの渡り初めが終るや、待ち構えていた群衆が両側からどっとおしかけて大変な人出、真新しい頑強なランカンをいたわるように触ってみる風景も〃渡り初め〃ならではの印象を受けた。

夜には地元観光協会が豪華な花火大会で初夏の夜空を色どるなど近郷近在から押しかけた沢山な人出で賑い盛大な開通祝賀の一日を送りました。

この橋は長さ一〇〇・四米巾四・五米で取付道路を含む事業費は二千百万円、築館組の施行にかかわるものです。

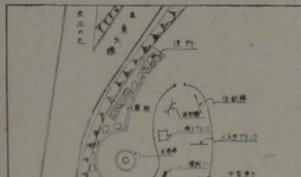
米代川の対岸軽井沢を含む大滝は[illegible]観光地として指定され、国立秋田労災病院をはじめ、温泉の開発以来急速な発展を遂げているが、位置や自然的条件に恵まれていながら唯一つ対岸への交通は渡船に依存するほかなかった関係から、その開発も遅れていたもの。

県内数多い候補地に優先して建設されることとなった秋田県市町村職員共済組合保養所も去る六月以来着工、また一つ景観を添えることになった。

大館の新しい街づくりから道路計画をみても延七米におよぶ幹線道路が山館から山すその景勝を縫って新設、本年度から一部着工の運びとなっているが、この道路が大滝のこの橋に結ばれるとき、観光産業の重要路線として、その果す役割はさらに大きなものとなりましょう。将来に大いなる期待を担って華々しく開通された大滝橋の完成を皆様とともによろこびたいと思います。（写真は渡り初風景）

よい子達へ

遊園地の贈物



児童遊園地見取図

市内三の丸居住の緑川正雄氏からこの程、大館市のよい子達のために児童遊園地、施設一式を寄附したいとの申出がありました。

これは去る四月十一日九十四才で逝去された氏の父君賢策翁の生前の念願を叶えようと、香典返しとして寄贈されることになったもの。賢策翁は昨年十一月三日文化の日には製材界に尽された功績により内閣賞勲局から黄綬褒章を授けられ、生涯企業の発展に尽されました。

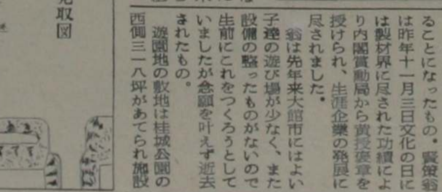
翁は先年来大館市にはよい子達の遊び場が少なく、また設備の整ったものがないので生前にこれをつくろうとしていましたが念願を叶えず逝去されたもの。

遊園地の敷地は桂城公園の西側三一八坪があてられ施設の完備したよい子達の楽園として八月五日には完成される之によって桂城々跡も市民公園として充実されるわけ。（図は児童遊園地の配置図）

大噴水も

桂城々跡の公園化計画がすすめられているとき大館市の上水道事業の完成を祝して久保田鉄工、伊藤建設ら事業関係業者から大噴水施設が寄贈されることになりました。

噴水は桂城公園正面入口に施設されることになり長さ十八・五米、巾九・五米のもので、三段バルブを備える豪華なもの。施設工事は八月九日から行われる大館市復興祭に間に合うよう完成されることになっています。



（写真は施設される大噴水場完成予想図）

〃ラジオ東北〃

街頭会議に思う

〃火災復興に何をのぞむ〃と題したラジオ東北の「街頭会議」が去る七月五日午前十一時から大町下ラジオ店前でゲスト[illegible]緑川商工会議所会頭を迎えて行われた。

意見は賛成の立場、反対の立場で活発に交わされましたが、なんといっても会議の中心は都市計画にからんだ換地の問題。自分の土地はあけ渡したが行き先が移ってくれないので本建築ができないと換地問題の促進を要望する方もあれば、話し合いが不充分だとか誠意がないとか、一方的だとかいう方もいる。しかし何れにしても換地は都市計画の実施に附帯するもので都市計画は将来大館市が発展する上に必要な都市的条件を百年の大計に立って整備しようとするものであって専門的立場から検討され監督官庁の指導を受けた理想的なものであってみれば換地はまたその枠内で操作されなければならないだろう。

道路が広くなり、家は建け替えられるのであるから自然これが実現には個人間の多少の細[illegible]も避けられないものでもありません。細論多数の前に少数の犠牲を意味するものでは断じてなろう筈はないが、しかし、大火以来三年目の今、本建築も続々完成されているとき、議論は建設的であり現実逆観したものでなければならないでしょう。市の遠大な発展への為めに、多少の細[illegible]もお互いに譲歩の気持で分ち合いたいものです。

市民の多くは一日も早く復興を完了し、誇り得るわが街となることを望んでいます。

新しいものを生みだすためには、そこに苦しみもあり、むつかしさもあるわけです。お互いがむすばれっての大いなる希望と前進こそ、明日の大大館市の繁栄を約束するものでありましょう。